

## 平成29年度事業報告

### 公益目的事業

平成29年度事業は、平成29年3月2日開催第84回理事会で決議された研究助成、講演会および海外からの留学生支援を行った。

#### 1) 研究助成

研究者に対する研究助成13件（1,300万円）および研究機関に対する研究補助1件（50万円）の合計14件（1,350万円）の助成を行った。その詳細は以下の通り。

#### ・研究助成

	助成者名	機関名	研究テーマ
1	まるやま のぶゆき 丸山 伸之	京都大学大学院農学研究科品質設計開発学分野 准教授	小麦タンパク質のアレルギー症状を誘引する特殊な分子構造の解明
2	まつしま りょう 松島 良	岡山大学資源植物科学研究所 准教授	新しい形と性質を持つ澱粉粒の 開発
3	おおいし かつたか 大石 勝隆	国立研究開発法人産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門生物時計研究グループ 研究グループ長	幼少期の食リズムの乱れが成熟後の肥満を引き起こす分子メカニズムの解明
4	しばた たかひろ 柴田 貴広	名古屋大学大学院生命農学研究科応用分子生命科学専攻生命機能化学講座 准教授	抗炎症作用を有する食品成分の探索とその作用機序の解明
5	ふじい ともゆき 藤井 智幸	東北大学大学院農学研究科生物産業創成科学専攻 教授	豆乳コロイドの安定性に関する 研究
6	こやま ひろふみ 小山 浩史	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科医化学分野 講師	食欲調節ペプチドホルモン受容体を介した食欲調節機構の解明
7	えがわ たつろう 江川 達郎	京都大学大学院人間・環境学研究科運動医科学研究室 教務補佐員	食事性の終末糖化産物（AGEs）が 骨格筋収縮機能へ及ぼす影響の 解明
8	うえの しげあき 上野 茂昭	埼玉大学教育学部生活創造専修家庭科分野 准教授	高圧処理を用いた大麦粉の粘度制御技術の開発およびメカニズムの解明
9	さとう ゆき 佐藤 夕紀	北海道大学大学院薬学研究院医療薬学部門医療薬学分野薬物動態解析学研究室 助教	食品成分が小腸の機能（吸収と排出）に与える影響を視覚的に検出する新しい系の開発

10	やの まさと 矢野 真人	新潟大学大学院医歯学総合研究科 准教授	セレンウム含有蛋白質の生理的意義の 解明および運動ニューロン疾患との関 連性
11	いち 市 いくよ 育代	お茶の水女子大学基幹研究院ライ フサイエンス専攻 講師	必須脂肪酸欠乏におけるアレルギーの 病態制御に関する研究
12	やました 山下 じゅん 絢	日本女子大学人間社会学部教育学 科 准教授	子ども期における「食」の実態と課題： 家庭背景および学校における食育に注 目して
13	とくだ 徳田 かつみ 克己	筑波大学医学医療系 教授	食物アレルギーのある幼児の保育ケア に関する保育者向け研修プログラムの 開発

・その他研究補助

	助成者名	機関名	研究テーマ
1	たんげ 丹下 たけし 健	東京大学大学院農学生命科学研究 科 研究科長・教授	国際的展開を目指す産官学民連携型 農学研究・教育体制の構築

2) 講演会

第25回講演会は、平成29年10月3日、クラブ関東大ホールにおいて「食と健康」を主テーマに開催した。

第一部で、平成28年度に研究助成を行った中から篠崎文夏神奈川県立産業技術総合研究所研究員並びに中嶋康博東京大学大学院農学生命科学研究科教授がそれぞれ研究報告・活動報告の発表を行い、第二部で、熊谷日登美日本大学生物資源科学部教授が「おいしさと加工性に優れた食品成分の健康増進機能」、佐々木敏東京大学大学院医学系研究科教授が「これからの食品産業における栄養疫学の必要性と有用性」について講演した。

参加人員は130名で、盛況の内に終了した。

3) 海外からの留学生支援

今年度は、コマン・ウイブティ・エムリコさん（東京農業大学在籍、女性、国籍：インドネシア）、コウ・シブンさん（東京大学大学院在籍、女性、国籍：台湾）及びサシナチャー・ジャムルーンさん（上智大学言語教育研究センター在籍、国籍：タイ）の3名にそれぞれ100万円を支援した。

3名は、平成29年11月24日に群馬県館林市の日清製粉グループ「製粉ミュージアム」見学会、平成29年12月14日に日清製粉グループ本社上福岡研究所群（基礎研究所、生産技術研究所及びQEセンター）の見学、クッキー及び冷凍パスタの試作実習等、また、当財団主催第25回講演会及び講演会後の懇親会に出席し、出席者と懇談を行い、我が国の食品産業、また日本の食生活等についての理解を深めた。

#### 事業報告附属明細書

平成29年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものがない。